

精神医学の歴史 その1

歴史を川の流に例える意見って、ときどきあると思います。秋元康先生が作詞して、美空ひばりが歌った「川の流のように」も、そんな感じだったかもしれません。最近、美術評論家のゴンブリッチという人が書いた「若い読者のための世界史」を読みました。その中にも、とうとうたる一筋の川の流に、世界の歴史をイメージしたイラストが描いてありました。

内村祐之先生は、日本の精神医学の草分け、と称される方です。内村鑑三というキリスト教学者の子で、アメリカのメジャーリーグの野球を日本に紹介した人としても有名です。内村先生の「精神医学の基本問題」という本があり、その中で、世界の精神医学が、やはり川の流に例えて紹介されています。ただ、ゴンブリッチ教授のイラストとはちょっと趣向の異なるものです。一本でなくて、二本の平行した川の流が表象されてあるからです。そして、二本の川の合流するところが、「近代精神医学」の誕生する地点であるとのことご意見です。

昔、精神病は精神病であって、それをいくつかの病気に分類するなど、意味のないこと、物好きのすること、とされた。「単一精神病観」という考え方です。今日、うつ病と躁うつ病とを区別しましょう、といった考え方がありますが、そんな細かい区別など、どうでもよかった。統合失調症と躁うつ病の区別すらなかった時代です。

しかし、19世紀の終わりから、20世紀の初めにかけて、ドイツのクレペリンという天才的な精神医学者と、その取り巻きのグループが、精神病の区分を打ち立てた。これが、科学的な精神病研究の始まりとされています。先に、二本の川といたうちの、一本の流が、こういった「精神病」の治療ならびに研究の歴史です。

同じ頃、精神病とは一線を画するものとして、ノイローゼという病気の存在が認められていました。19世紀の中ごろ、メスメルという先生が、この病気の治療に画期的な成功を収めたといってもはやされた。磁気術というテクニックを使ったのだということです。

その後、シャルコーという、有名なフランスの先生が、催眠術を使って、ヒステリーという病気の治療をし、これまた周囲を瞠目させた。シャルコーのところに留学して、治療の見事さにすっかり圧倒されたのが、若きフロイトであった。フロイトは、後にクレペリンと並び称される精神医学の巨人です。二本の川の流のもう一本のほうは、こういった「ノイローゼ」の治療の歴史であり、精神分析という学問の誕生の歴史でもあります。

健康講話では、以上のような歴史の事柄を、もう少し題材をふくらませてお話ししたいと考えています。